

国際貢献を含む国際社会における我が国の役割についての学習は、日本人としての視点に終始しがちであったり、感情論で「戦争反対」になってしまったりしがちの内容でもある。

そこで、まず世界各国の代表になったと仮定した模擬国連を実施して、各国の背景・立場を理解した上で、世界平和に向けた合意形成に必要なことは何か、また、日本人としてどう考えるべきなのか、自分なりの考えを深めた実践を紹介する。

POINT 1 自分なりの考えを深める学習活動

各国の大使の立場で主張する「模擬国連」

世界各国の主張の背景・立場を理解した上で、「自分たちの納得解」を出す

国際社会における平和の維持に向けた我が国の役割について自分なりに考えるために、まずは、世界各国の立場になって考える模擬国連会議を開く学習活動を行い、対立する国際情勢や、特に「核軍縮・核不拡散への合意」の困難さについて理解を深めた。実際に教室内で各国の大使の役割を分担し、自国の国益のために主張をぶつけ合う議論を体験できるため、「核軍縮・核不拡散」という議題に対して多面的・多角的に考察を深めていくことにつながった。

【学習の流れ】

1. 「核軍縮・核不拡散」について世界の合意形成を目指して議論するなら、どの国の参加が必要だろうか？
・議題に対して、世界の合意形成をするために必要だと考えられる国を、自分たちで選ぶ。
※本授業では、13ヶ国とした。
2. 自国の大使として国益を守るために、どのような主張をしていくべきだろうか？
・グループで、自国の主張をするために必要な情報を調べ、議論に向けて準備を整える。
3. 模擬国連『世界平和に向け、核軍縮・核不拡散はどうあるべきか』
・クラスで模擬国連会議を開き、議論し、決議案を作成する。

単元の終末には、以下のパフォーマンス課題に取り組んだ。

パフォーマンス課題	① なぜ「核軍縮・核不拡散」は進まないのか、これまでの取組事例を踏まえて説明せよ。
	② 「核軍縮・核不拡散」を進めるためにはどのような取組が必要か。自分の考えを主張せよ。
ルーブリック	A 模擬国連などの授業での取組や自身で調査した事例も踏まえながら説明している。
	B 様々な事例を用いて説明しようとしている。
	C 事例を用いて説明しようとしているが、事例の内容が限定的である。

実践者に聞く！ エピソード紹介

●多様な国を調べ、議論する経験が、「背景を理解して、判断する力」につながる

これまでは、生徒が自分の考えを主張するときには、何に基づいているのかあいまいな場合が多いと感じていました。模擬国連の実践をしてみると、日本以外の国の立場で主張しなければいけないので、かなりの情報を調べる必要が出てきます。そして、議論の展開に応じて、その情報を活用して意見を述べていかなければなりません。これによって、感覚ではなく、事実に基づいて語る姿が見られるようになってきました。また、どのグループもしっかりと調べ、一生懸命主張するので、議論は一筋縄では進みません。しかし、期限内に自分たちなりの答えを出さなければならない。この学習経験が、「多面的・多角的に考えた自分たちの最適解」を出す力の育成につながったと感じています。

単元計画

『よりよい国際社会に向けて、世界は、どのような合意形成をしていくことができるだろうか』

■単元の目標

【知識及び技能】

我が国の安全保障と防衛に関わる現実社会の事柄や課題について知り、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割について理解する。

【思考力、判断力、表現力等】

国際貢献を含む国際社会における我が国の役割について、国際社会が抱える様々な課題解決に向けて、国際政治や経済の側面を関連させ、多面的・多角的に考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する。

【学びに向かう力、人間性等】

よりよい国際社会の実現を視野に、国際社会が抱える様々な課題に対して主体的に追究・解決しようとする態度を養うと共に、持続可能な国際社会の形成に向け、各国が互いを尊重し合って合意形成していくことの大切さについての自覚などを深める。

■単元計画

単元を貫く問いとして、『よりよい国際社会に向けて、世界は、どのような合意形成をしていくことができるだろうか』を設定。「核軍縮・核不拡散」を議題にした模擬国連を通して、国際社会が抱える問題解決に向けて具体的な取組を自分なりに考えるパフォーマンス課題に取り組んだ。

時数	学習内容
16	●単元を貫く問いの提示 『よりよい国際社会に向けて、世界は、どのような合意形成をしていくことができるだろうか』
	①～②世界が話し合うためには、どんなことを踏まえる必要があるだろうか？ ・多様な文化・風習・宗教への理解
	③～⑥「核軍縮・核不拡散」について世界の合意形成を目指して議論するなら、どの国の参加が必要だろうか？ ・核軍縮・核不拡散、各国の歴史、現代社会における国際関係、経済的つながり
	⑦～⑨自国の大使として国益を守るために、どのような主張をしていくべきだろうか？ ・21世紀の世界情勢（テロや難民） ・国家を中心とする安全保障では対処しきれない事項 ・軍縮問題、核兵器 ・病気や貧困、環境破壊など世界的な視野に立った問題
	⑩～⑪それぞれの国同士のつながりは？ ・政治的、経済的つながり
	⑫～⑮模擬国連『世界平和に向け、核軍縮・核不拡散はどうあるべきか』 ・核軍縮・核不拡散
	⑯よりよい国際社会に向けて、世界は、どのような合意形成をしていくことができるだろうか ・安全保障と自衛隊 （国際社会の平和と安定の維持のために自衛隊が果たす役割）

実社会における国家間の関係性を考える前に、世界には多様な考えをもつ国々があり、同じ議論のテーブルにつくこと自体が難しいということに気付くよう、知識を整理してから単元の学習を始める。

「世界の問題解決（本実践では核軍縮・核不拡散）のために、必要となる国」を自分たちで挙げ、決める。（本実践では、約3人のグループを組み、13ヶ国（グループ）とした。）自分たちで決めた国について、クラスで分担して調べていくことで主体性を喚起する。

教員がどこの国にも属さない立場で進行役を務める。その場の雰囲気ですすめ、学習内容の深まり、気付きをねらって、意図的に発言を促すこともある。

模擬国連会議に参加した他国の立場から日本に対して求めることについて出し合い、様々な視点から日本だからこそできることを考えていく。

※ ○数字は、各授業（50分）を示す。
※ □のピックアップ授業詳細は、次頁。

Pick Up! >> 中心となる授業展開

単元のこれまでの学習を振り返り、戦争を放棄し、唯一の被爆国である日本に求められる国際的な役割について考えを深める最終のまとめの授業。

まず、これまで模擬国連で担当してきた各国の立場で日本に求めることを出し合い、日本だからこそできることは何なのかを全体で話し合った後、世界で「核軍縮・核不拡散を進めるためにはどのような取組が必要だと考えるか」自分なりに主張するパフォーマンス課題につなげた。

■ 本時のねらい

- ・国際社会の中での我が国の役割について理解を深め、「核軍縮・核不拡散」をはじめとする諸問題の解決に向けて平和的に解決するために大切なことについて、自分の考えを明らかにする。

■ 本時の展開

(50分)

過程	学習内容	指導上の留意点
導入 5分	○よりよい国際社会に向けて、世界は、どのような合意形成をしていくことができるだろうか ・単元におけるここまでの学習を振り返る。	・本時では個人で最終的な考えを主張することを伝える。
展開 ① 20分	○世界平和に向けた合意形成において、国際社会の中で日本に期待されることは何か？ 【全体的話し合い】 ・「核軍縮・核不拡散」を進めるために ①それぞれの国の立場から、日本に求めることは？ ②日本だからこそできること、日本だからすべきことは？ ・変化する国際情勢の中での我が国の役割 ○自衛隊の役割とは？ ・安全保障と自衛隊	・模擬国連で担当してきた各国の立場で日本に求めることを出し合う。 ・国際社会の平和と安定の維持のために自衛隊が果たす役割について説明する。
展開 ② 20分	【個人の考えを書く】 ①なぜ「核軍縮・核不拡散」は進まないのか、これまでの取組事例を踏まえて説明せよ。 ②「核軍縮・核不拡散」を進めるためにはどのような取組が必要か。自分の考えを主張せよ。	・文字数指定などはせず、自分なりの主張が表現できるようにする。
まとめ 5分	○授業の内容の振り返り ・自分が国際社会に対してどのように考えることができるようになったのか、振り返って記述する。	・国際社会が抱える問題に対して、自分の立場を明確にして、考えを明らかにできるようにするために大切に感じたことは何かを考える。

自分たちが会議を開いた模擬国連の学習活動では、解決の難しい問題に対して自分たちなりの答えを出したことを評価し、本時ではそれを個人で行うことを伝える。

単元のパフォーマンス課題に対して、まずは全体で話し合う。模擬国連を通して担当してきた国の立場から、どんなことを期待するか出していくことで、多面的・多角的な視点で考えを深められるようにする。

どのような社会的事象や国際関係などを論拠とするのか、論理立てて自分の考えが主張できているのか、確認する。(ループリックを準備)

立場や背景の異なる国家間における合意形成の難しさを踏まえて、「核軍縮・核不拡散」をはじめとする諸問題について平和的に解決していくために大切に感じたことは何かを考える。

実践者に聞く! エピソード紹介

●「先生、答えが出せません!」という経験を乗り越え、自分なりの考えをもつ

模擬国連会議で議論を進めていくと、生徒からは「矛盾しているんですね、私たちの国連。」「現実ではありえない話になってます!」そんな声が聞かれました。そして、「先生、もう1時間ください! 答えが出せません!」と、国際社会における問題解決について、関係する国々が合意しながら進めることがいかに難しいか、実感をもって学ぶことができたと思います。

そんな体験をしたからこそ、最後の授業では、「全ての国が少しずつでも核軍縮・核不拡散の政策を積極的に行うことが理想である。多くの国を説得するためには、まず、核の保有数が多い国から減らしていく模範を見せることが大切である。」など、様々な国や立場の考えを踏まえた上で、根拠を明確にして、未来社会に向けた自分の考えを述べる生徒が多く見られ、国際社会に主体的に参画しようとする頼もしい姿を感じました。

POINT 2 外部リソースの活用 —グローバル・クラスルーム日本協会HP

一般公開されているコンテンツの活用

生徒に「模擬国連をしよう」と伝えても、イメージが湧きづらい。そこで、グローバル・クラスルーム日本協会の資料を活用し、動画として準備されている「高校生が議論する様子」を視聴して興味を喚起しながら、単元に入った。

映像は、まさに国連の会議そのもの。自分たちと同じ世代の日本の高校生が、世界の問題に対して熱く議論する様子を視聴することで、生徒たちは活動のイメージをもつことができた。

●活用した資料

WEBSITEに準備されている、マニュアル、基本ルール、教員向け手引きなどを使用。

●議題の選定

過去の議題として、「気候変動」「エネルギー」「人権とジェンダー平等」など様々な国際問題が提示されている。本実践においては、「公共」の学習内容から、「核軍縮・核不拡散」を選択。授業で取り組んだ。



模擬国連の様子



「自国の大使」として主張を検討する様子

実践者に聞く! エピソード紹介

●「議論したい」思いが、探究的に学びを深めていく

実際に教室で行った模擬国連会議の話し合いは、1時間で終わるものではありません。事前準備として情報を収集し、整理・分析し、まとめておく。これを、自国の国益のために議論の場で表現する。そして、次の時間の議論の続きに向けて、改めて調べ直したり、説得や味方になってもらうために表現の仕方を工夫したりする。まさに、生徒たちが主体的に、探究していく姿が見られました。

また、1か国を3人グループで担当したので、調査やまとめ、発表など役割をもった分担や、クラス全体で様々な立場の意見を出し合うからこそ深まっていく、協動的な学びの姿も見られました。

卒業生に「印象に残った授業は?」と聞くとこの授業を挙げる生徒が多く、「自分で調べたことを使って議論するところ(知識を活用する学び)」「全然意見がまとまらなくて、何度も話し合い、それぞれが修正しながら、自分たちで答えを出すところ(粘り強い取組・学びに向かう力)」などの声が聞かれ、今、求められる資質・能力の育成につながっているところが、生徒自身にとっても魅力に映っていることが印象的でした。

●国相互の関係性を客観視する「関係図」

生徒たちの議論は白熱すると、その場の雰囲気や言い回しで、実際の国同士の関係性を度外視して安易に妥協してしまったり、主張を貫き通したりしてしまうことがありました。そこで、国相互の関係性を客観的に明らかにしておくために、関係図をつくり、政治的、経済的つながりを可視化し、論理的に議論ができるようにしました。

→生徒がついた関係図。模擬国連(13か国)として参加している国だけでなく、他の国との関係も可視化して整理している。

